

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ げきだんあとむ		団体ウェブサイトURL
	有限会社劇団あとむ		http://www.atomw.co.jp
代表者職・氏名	代表 秋山京子		
制作団体所在地	〒 169-0051	最寄り駅(バス停)	副都心線 西早稲田駅
	東京都新宿区西早稲田1-4-18 稲穂ビル202		
電話番号	03-6380-2852		
ふりがな 公演団体名	ゆうげんがいしゃ げきだんあとむ		団体ウェブサイトURL
	有限会社劇団あとむ		http://www.atomw.co.jp
代表者職・氏名	代表 秋山京子		
公演団体所在地	〒 169-0051	最寄り駅(バス停)	副都心線 西早稲田駅
	東京都新宿区西早稲田1-4-18 稲穂ビル202		
制作団体 設立年月	1984年 1月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 秋山京子 取締役 楠 定憲 小嶋京子 大場寿子		◎構成員 劇団員 15名 ◎加入条件 研究生を経る
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	秋山京子・楠 定憲
経理処理等の 監査担当の有無	無	経理責任者名	高橋由布子

<p>制作団体沿革</p>	<p>1984年1月、演出家関矢幸雄氏を創造リーダーに、クニ河内氏を音楽監督に迎え発足。 『想像力の涵養こそ、生きる力に繋がる』という信念のもとに、ジャンルにとらわれず自由な発想を以て、舞台劇であり、音楽劇であり、人形も使うという、作品づくりをしています。</p> <p>作品は、「厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財」・推薦・特別推薦です。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>◎『あとむの時間はアンデルセン』小学校395校 ◎デンマーク公演6都市17ステージ ◎『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』小学校512校 児童館220館</p> <p>◎『気のいいイワンと不思議な小馬』小学校301校 ◎『あとむのお話コンサート』小学校95校 ◎『走れメロス』小学校 47校</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>養護学校・特別支援学校 『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』38校 特別支援学校は各校、人数(50人～300人)・学年(小学生～高校生)差があります。</p> <p>障害の違いは、全員車椅子・盲・聾の障害・知能障害、等々非常に多様です。 各学校の趣旨によって先生方とよく相談し、ワークショップも本公演も客席も工夫します。 先生の希望により、台本を送り、手話通訳の方を付けることも何度もありましたが、たいていの場合、本番中にまもなく通訳を止めておられました。 あとむの表現「音楽的に語り継ぐ手法・手話等を含めた動き」を観て、子ども達が理解し、楽しんでいると、先生方が認識して下さいます。 こどもたちは特に、みんな音楽が好きで、ハーモニーが好きです。 一切電気音(マイク・電子楽器)をしません。生の音・音楽も大きな評価を得ています。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/khcU0h98G7I ダイジェスト版+本編</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 有限会社劇団あとむ 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名					
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』</p> <p>原作 H. C. アンデルセン 脚本 秋山英昭・関矢幸雄 構成・演出 関矢幸雄 音楽 クニ河内 美術 有賀二郎</p> <p>公演時間 (70 分)</p>				
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	<p>☆ 構成・あらすじ 《音楽劇》 9人の妖精がお話を運ぶ</p> <p>① 劇『パンをふんだ女の子』 靴を汚さないよう、ぬかるみにパンを置いて渡ろうとした女の子インゲルのお話。</p> <p>② 子どもたち参加『アニメイムで遊ぼう』まず、出演者のアニメイムのユニークなパフォーマンス。その次に子どもたちが参加し、遊びます。</p> <p>③ 劇『父さんのすることはみんなよし』 要らない馬を、何かいいものと取り換えようと、父さんは市場に出かけます。色々なものに取り替えていき、ついには腐ったリンゴになっちゃった。さあ、家で待つ母さんはどうするか。ほんどうの値打ちとは？</p>				
演目選択理由	<p>☆ アンデルセンの、弱者に焦点をあわせた人生観、価値観が、童話を通し、楽しく優しく子どもの心に届きます。</p> <p><アニメイム> 棒とボールと輪を使い、複数の人数で、空中に、瞬時に動物や風景を描く手法。 息を合わせひとつの「もの」を創り、命を吹き込む、 関矢幸雄演出オリジナルの想像遊びを盛り込みました。</p> <p><アカペラコーラス> 3声～5声のハーモニーで、台詞、歌、擬音、すべて生の声で演じます。</p> <p><手話> 手話は、意味を伝える美しい動きとして、効果的であり、魅力的な表現のひとつであることを伝えます。</p>				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【アニメイム】で遊ぶ</p> <p>共演は演目概要②の「遊び」の部分で、舞台に出て貰い、即興の呼吸を体験。 自由な発想のきっかけを呼び起こします。 劇団員とともに、棒とわっかボールで、動物や、物の形をつくってみます。 海の波動や、ものの連動など、大勢で伝えていき、息を合わせて動かします。</p>				
出演者	<p>楠 定憲 織田晴光 原田邦治 林 大介 野口 徹 三浦美穂子 京本幸子 高橋由布子 黒木幸枝 藤石夏菜</p>				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 10 名	運搬	積載量: 2 t		
	スタッフ: 0 名		車長: 5 m		
	合計: 10 名		台数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	7:30	7:30~10:00	10:30~11:50	無し	12:30~14:00	14:30
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
				5日	10日	
	11月	12月	1月	計	50日	
	20日	5日	10日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安		10名	
			鑑賞人数目安			

体育館の舞台と客席



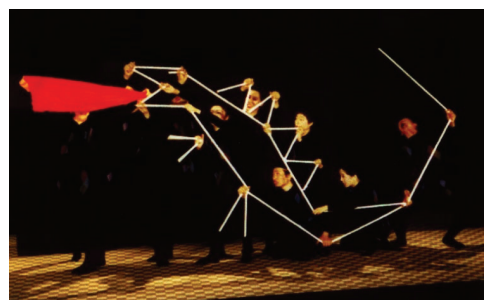
公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

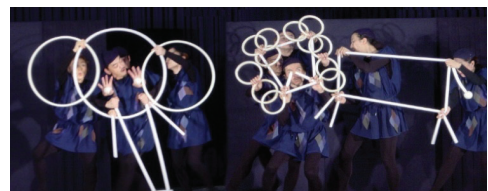
①『パンをふんだ女の子』



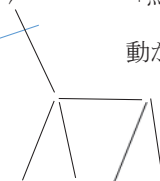
②『アニメイムで遊ぼう!』



③『どうさんのすることは みんなよし!』



【公演団体名 有限会社劇団あとむ】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1回の人数は全員が物に触り、動くには理想は30人～50人。1時限ずつ、2回(50人×2回=100人)の実施が可能です。
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>《アニメイム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 棒、ボール、輪をつかった造形を手遊びから、表現へ繋がります。つくりかたの発想を児童、先生方に、提案・指導します。 ◎ 音楽 動きから自然に生まれるリズムや、曲想を楽しむ音楽にふれる機会にします。 ◎ 体験する児童だけでなく、体育・総合教育の時間にも相応しい内容です。 ◎ 全校生徒多数の場合は、学校の舞台に一部生徒を選出参加の形で可能です。 <p>☆90cmの棒 6本 +45cmの棒1本で ⇒ 「馬」になります。3人～4人で持って繋ぎ、  動かし歩かせたり、乗ってみたいです。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>【ひとつのものを複数の人でつくる時、みんなで呼吸をはかり合うことが必要だ】 ということ、伝えます。</p> <p>【想像する楽しさ⇒かたちにする面白さ⇒複数でひとつのものを想像し、共鳴することの発見】 を伝えます。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>ご準備いただくことは、参加児童各自が使う【棒】を新聞紙をくるくる巻いて、1本、作成して戴きます。 先生方のご負担にならないよう、図や写真でご説明いたします。 ワークショップが終わった後も、各自で新しい思いつきで、遊ぶ事ができます。 他は一切お手数をかけることはありません。</p>		